



# とのやま



【学校教育目標】生き抜く力を身につけ、自ら輝く生徒の育成

【目指す生徒像】自立のために自律できる生徒

富士見台中学校HP

## 稚心を去る

24日(火)の合唱コンクールでは、各学級ともこれまでの練習の成果が十分発揮できたと思います。各学級でのまとめと振り返りを通して、自分自身や学級の成長が実感できるのであれば何よりです。2年2組は今回参加できなかったため、11月の市内音楽祭で練習の成果を発揮してくれることを期待しています。

また、当日同じ時間帯に試合に臨んでいたソフトボール部は、県大会第3位という輝かしい結果となりました。21日(土)、23日(月)に引き続きの試合、連日よく戦いました。そして、試合終了後に大急ぎでキラリまで送ってくださった保護者の皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。

合唱コンクールの控室で指導者の土田先生とお話したときに、みなさんの演奏について、「学級のまとまりを感じる」と話してくださいました。これは合唱コンクールに向けた取組はもちろん、各学級における日々の活動においてまじめに一所懸命に取り組んできたことに対する評価ではないでしょうか。

土田先生の言葉をありがたく受け止め、個人としても集団としてもさらなる高みを目指して、一人一人が主体的に活動していきましょう。

そして、みなさんの今後に期待しているからこそ、今回はあえて苦言を呈します。

ここ最近、いじめやからかい、ネットへの不適切投稿、放課後の過ごし方によるトラブルなどが続いています。中には、警察のお世話になった件もあります。

学校としてはどれも「人としてやってはいけない」ことをしてしまった、重大な事件だととらえています。

学校は、正しいことが正しいと言える正義が通る場でなければなりません。嘘をつかない、卑怯なことをしない場であるべきです。しかし、残念ながら今の世の中を見渡すと、そうでない場や出来事がたくさんあります。だからこそ、学校で正しいことを学んで、みなさんが大人になったとき、社会全体をよりよくしていく原動力になってほしいのです。

幕末の志士である橋本左内は子どものころ、自分のことを「何をしてもおろそかで、注意が行き届かず、しかも弱々しくてぬるい性格であり、全く進歩がない」と分析し、このままでは国や藩のために役に立つ人間にはなれないと考えました。左内はそんな自分を深く恥じ、立派な大人になるための心得として、15歳の時に「啓発録」という文章を書き上げました。

「15歳」といえば、今では中学校を卒業する年齢です。15歳の左内が書いた「啓発録」には、以下の五つの項目が記されています。

## 1 去稚心(稚心を去る)

目先の遊びなどの楽しいことや怠惰な心や親への甘えは、学問の上達を妨げ、武士としての気概をもてないので、捨て去るべき。

## 2 振気(気を振う)

人に負けまいと思う心、恥を知り悔しいと思う心を常にもち、絶えず緊張を緩めることなく努力する。

## 3 立志(志を立てる)

自分の心の赴くところを定め、一度こうと決めたらその決心を失わないように努力する。

## 4 勉学(学に勉む)

すぐれた人物の素行を見習い、自らも実行する。また、学問では何事も強い意志を保ち努力を続けることが必要だが、自らの才能を鼻にかけたり、富や権力に心を奪われたりすることのないよう、自らも用心し慎むとともに、それを指摘してくれる良い友人を選ぶよう心掛ける。

## 5 択交友(交友を択ぶ)

同郷、学友、同年代の友人は大切にしなければいけないが、友人には「損友」と「益友」があるので、その見極めが大切で、もし「益友」といえる人がいたら、自分の方から交際を求めて兄弟のように付き合うのがよい。

学校での生活を見ていると、自分はまだ子どもだと思っている人が少なくないようですが、12歳から15歳といえ、歴史をさかのぼってみると大人の仲間入りをする年齢です。正しいこととそうでないことの分別を付けられる年齢であるはずですが。

「自分は子どもだから許される」などと、甘えたことをいう年齢ではないことを肝に銘じてください。これからの社会をつくるのはみなさん一人一人なのです。

富士見台中学校の先生方は、みなさんをどこに出しても恥ずかしくない立派な人に育てて、この学校を卒業させたいと心から願っています。

これまでの自分を正しく、そして厳しく見つめてみましょう。至らないところがあった人は、それを克服すればよりよい自分へと成長することができます。よい心がけのもとに生活できている人は、今後もその気持ちをもち続けて自分を磨いていきましょう。

中学校生活はたった3年。令和5年度の折り返しなんてとうに過ぎました。くだらないことに時間を使っている暇はないのです。

みなさん一人一人が稚心を捨て去り、立派な台中生になる、立派な大人になるという気概をもって学校生活を過ごしていきましょう。

※このお便りは、保護者の方にもお渡しして読んでいただいでください。